

## 6 いっちゃん さん（小学1年生）



作品名「あきのやまのゆうぐれ」

作者の言葉

あきの山と、その色はいろんな色をかさねたところをくふうしました。

きいろのまるは、たいようです。

かけじくづくり、おもしろかったのでまたやりたいです。シールのゴミもせいさくにつかいました。

(両面テープの剥離紙で工作を作ってくださいました→)



学芸員からのコメント

真正面から大きく山を描いています。多くの色を重ねたことで、山にも空にも秋の夕暮らしい雰囲気が出ていますね。そしていきいきと走る色の線が、画面の中で心地よいリズムになっていると思います。

美術館の所蔵品からも、秋の山を描いた作品を1点紹介します。

牛久に暮らした小川芋銭さんも、山が鮮やかな色に染まった様子を描きました。

やはりいろいろな色を使っていますね。

タイトルの「秋嶺明浄粧」は昔の中国の有名な画家の言葉です。「秋の山(嶺)は明るく清く(浄く)、身なりを整えて(粧って/よそおって)いるようだ」というような意味だそうです。

いっちゃんさんの描いた山も、色づいた木の葉が夕日に映えて、きれいな服を着ているようです。



小川芋銭「秋嶺明浄粧」